

平成 19 年（2007 年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 2007 年の活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～3）

2 月 26 日、7 月 2 日、8 月 24 日、11 月 7 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口では複数の噴気孔からの噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各噴気孔に対応する高温域が認められました。噴気や地熱域の状況は、これまでと比べて特に変化はありませんでした。御鉢平カルデラでは噴気は認められず、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも地熱域は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注) 平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。大雪山では、2007 年に火山情報の発表はありませんでした。

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の作図にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

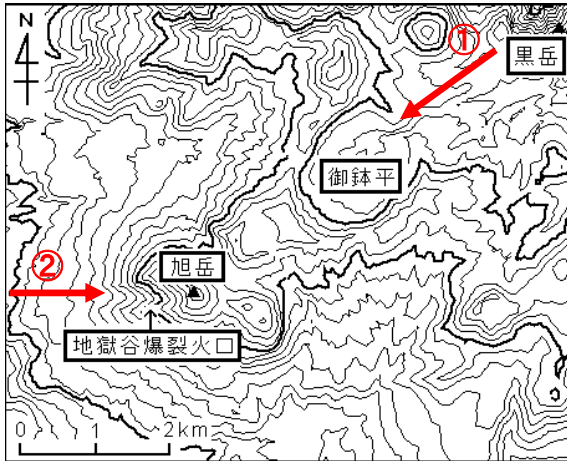


図 1 大雪山 火口周辺図

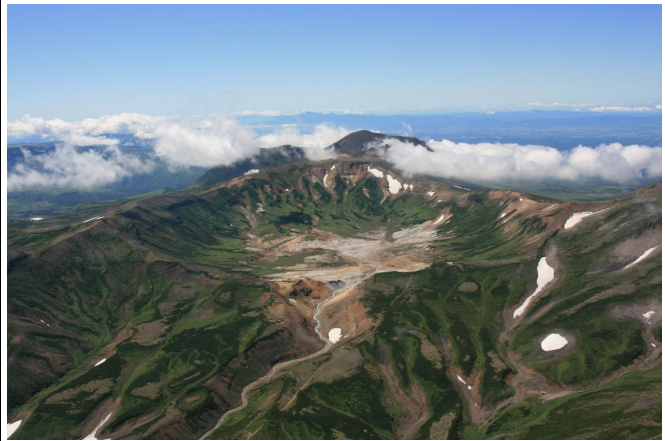


図 2 大雪山 御鉢平の状況
(2007 年 8 月 24 日 図 1 ①方向から撮影)

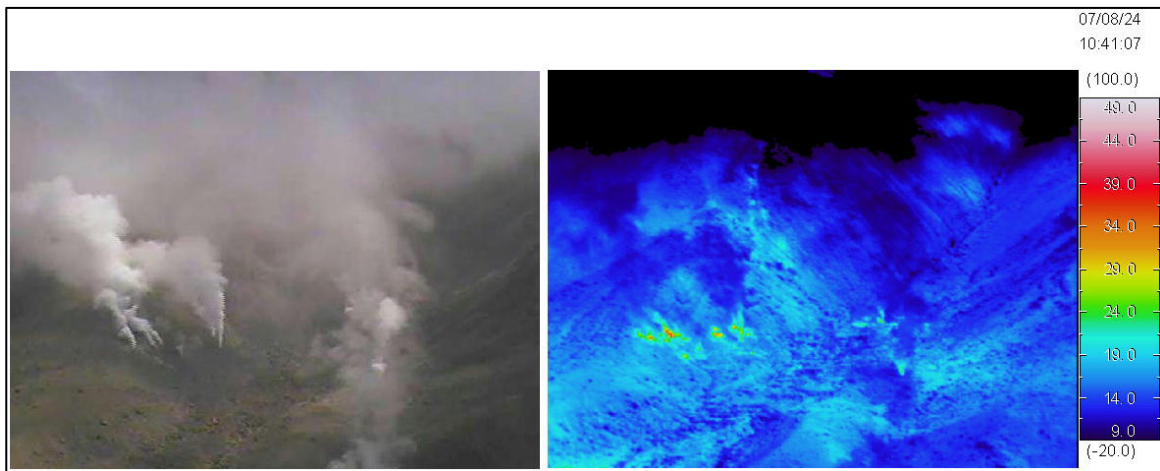


図 3 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
(2007 年 8 月 24 日 図 1 ②方向から撮影)